

第1号議案

令和4年度 事業報告

1. 通常総会

第63回通常総会は、令和4年5月27日（金）アルカディア市ヶ谷（オンライン形式）において開催した。出席者は委任状とも1,297名で、定款第17条に規定する定足数に達した。

定款第15条の定めにより、本総会の議長は会長がこれにあたるとしており、阿波野会長を議長とし、議事の審議にあたった。

(1) 議 事

議事録署名人については、定款第19条により、議長および議長が指名する出席者2名以上としており、出席正会員の中から下村 匠氏および三島康造氏の2名が指名され、令和3年度事業報告、同収支決算報告、役員改選はいずれも原案どおり承認議決された。

また、令和4年度事業計画、同収支予算についての報告があり、いずれも了承された。

(2) 名誉会員推挙

石原重孝殿、宇治公隆殿、二羽淳一郎殿、林 三雄殿が名誉会員に推挙された。

(3) プレストレストコンクリート工学会賞授与

令和3年度（第49回）授賞は、論文賞2件、作品賞7件、技術開発賞1件、施工技術賞1件の計11件である。

○ 論文賞

- コンクリート表面のひずみとひび割れ幅の計測に基づく
PC桁の残存緊張力の推定手法の開発
(会誌第63巻5号)
恒 國 光 義 殿
加 藤 佳 孝 殿
石 塚 健 一 殿
長 谷 俊 彦 殿
- 膨張コンクリートを用いたCPC梁の膨張分布と力学的
性状（総合題目）
(会誌第62巻6号，63巻1号)
辻 幸 和 殿
栖 原 健太郎 殿
李 春 鶴 殿
小 竹 弘 寿 殿

○ 作品賞

(土木部門)

- 別荘谷橋
西日本高速道路(株) 殿
三井住友建設(株) 殿

- 阿蘇大橋 国土交通省 九州地方整備局 熊本復興事務所 殿
大成・I H I インフラ・八方地域維型 J V 殿

- 北陸新幹線 細坪架道橋 (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北陸新幹線建設局 殿
(株)千代田コンサルタント 殿
鹿島・オリエンタル白石・本間・北都特定建設工事共同体 殿

- ケラニ河新橋 パッケージ2 スリランカ国 高速道路省 道路開発庁 (R D A) 殿
(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル 殿
三井住友建設(株) 殿

(建築部門)

- 岩国市立東小・中学校 岩国市 殿
(株)石本建築事務所 殿
(株)カシワバラ・コーポレーション 殿
オリエンタル白石(株) 殿

- 国立競技場 (独)日本スポーツ振興センター 殿
大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体 殿
大成建設(株) 東京支店 殿

(改築・改修部門)

- 阪神高速12号守口線の床版更新 阪神高速道路(株) 管理本部 殿
—U F C床版の適用による機能の回復と向上— 鹿島建設(株) 殿

○ 技術開発賞

- P C有孔梁の既製品開孔補強金物による開孔補強工法 丸田 誠 殿
(ダイヤレンP C工法) (株)ピーエス三菱 殿
オリエンタル白石(株) 殿
(株)建研 殿
コーリョー建販(株) 殿

○ 施工技術賞

- 新東名高速道路 中島高架橋工事 中日本高速道路(株) 東京支社 殿
(株)大林組 殿

以上の賞について、工学会賞選考委員会井上 晋委員長より選考結果が報告された。授与式は省略し、受賞者には賞状と副賞として記念盾がそれぞれ贈られた。

2. 理 事 会

通常理事会を10回（8月，2月を除く毎月），臨時理事会を1回（5月）開催した。
議事録要旨は会誌の工学会記事欄に記載しており，省略する。

3. 会誌等の発行

会誌は隔月に6回計21,000部を発行した。

4. 委 員 会

【常設委員会】

(1) 総務委員会

総務委員会を7回（4月，6月，7月，10月，12月，2月，3月）開催した。4月は令和3年度事業報告案ならびに同収支決算案を審議した。6月は役員の職務分担，7月は各委員会名簿確認，10月は上期収支決算および会員増加推進小委員会活動報告，12月は役員候補者，年間主要事業および組織図変更案について審議を行った。2月は役員候補者，名誉会員候補者について検討を行い，3月は役員人事，名誉会員推挙，令和5年度事業計画案，同収支予算案および各委員会規程改定案を審議した。

(2) プレストレストコンクリート工学会賞選考委員会

第50回（令和4年度）プレストレストコンクリート工学会賞選考のため，3回の委員会を開催した。令和5年3月30日開催の第3回目の委員会の討議を経て，論文賞2件，作品賞7件（土木部門3件，建築部門2件，改築・改修部門2件），施工技術賞1件を受賞候補に選出し，これを4月度理事会に答申した。

(3) 会誌編集委員会

委員会を11回（8月を除く毎月）開催した。会誌「プレストレストコンクリート」を年度6回発行した。第64巻4号，6号，第65巻2号は特集号とし，それぞれ「建築特集」，「PCグラウトの歩みとこれから」，「人材育成がもたらす技術力・生産性向上」を企画特集した。

(4) ナショナルレポート編集委員会

令和4年6月にオスロ（ノルウェー）で第6回*fib*コンGRESが開催された。日本を代表するコンクリート構造物を広く海外へ紹介するための「National Report of Japan on Structural Concrete 2022」を公益社団法人日本コンクリート工学会（以下，JCI）と共同で編纂するため，委員会を6回，幹事会を5回，JCIとの合同幹事会を4回開催した。「National Report of Japan on Structural Concrete 2022」は，本工学会ホームページ上で公開し，*fib*のナショナルレポートウェブページからも閲覧できるようにした。

(5) シンポジウム実行委員会

委員会を9回、総務・広報・学術・現地WGを合計18回開催し、島根県松江市のくにびきメッセ（島根県立産業交流会館）で開催する第31回シンポジウムの企画と運営を行った。また、令和6年の開催地を新潟県新潟市で行うことを決定した。令和5年1月からは福島県郡山市のビッグパレットふくしま（福島県産業交流会館）で開催する第32回シンポジウムの準備に取りかかった。

(6) PCアーカイブス委員会

委員会を1回、幹事会を4回、3つのWGを各1回開催した。幹事会では委員構成、今後の活動方針、各WGの活動計画について議論を行い、活動実施に向けた体制を構築してきた。システム検討WGは、ホームページ「アーカイブス」の改修について委託会社と意見交換を行った。アクセス者数を把握するため12月よりカウンターを設置した。収集整理WGは、今後情報収集する技術情報の収集方針の整理、確認を行った。資料収集は著作権を踏まえ、昭和43年（1968年）以前を対象とし、すでに収集されている情報以外のPC構造物、技術情報をリストアップした。原稿企画WGは、次年度PC技術講習会の講演題目、テキスト原稿の目次構成および執筆担当について検討した。次年度の活動内容として未発表の黎明期PC構造物の会誌投稿やインタビューの企画など進めていくことを確認した。

(7) PC技術規準委員会

委員会を3回、幹事会を4回開催し、講習会開催方法の検討、新たな小委員会の立ち上げなどについて検討を行った。令和4年度には「PC構造物の3次元解析による部材設計ガイドライン作成小委員会」、「PC技術を用いた構造物の低炭素社会への貢献に関する検討小委員会」を新たに設立した。また、所管する受託研究委員会のPC連続Uコンボ橋の継目部に関する設計指針検討委員会が策定した設計指針案の審査とPC橋プレキャスト工法技術規準作成小委員会が発刊する新たな規準について意見照会を行った。

1) PC斜張橋・エクストラドーズド橋設計施工規準改訂小委員会

昨年度策定したPC斜張橋・エクストラドーズド橋設計施工保全規準の発刊に伴うセミナーを令和4年4月にオンデマンド動画配信形式にて開催した。

2) PC橋プレキャスト工法技術規準作成小委員会

委員会を1回、幹事会を6回開催し、規準の記載内容に関する討議と規準の作成、小委員会内での意見照会を行い、PC技術規準委員会へ意見照会を依頼した。また、事例集の内容充実を図るため、現場見学会を実施した。

(8) PC鋼材委員会

委員会を1回開催し、以下の討議と報告を行った。

- ① 海外におけるPCケーブルの腐食や損傷、破断事例および耐久性向上のための取り組み内容の紹介ならびに討議

- ② ASBI (American Segmental Bridge Institute) Convention (令和4年10月, 米国・テキサス州で開催) にて報告されたP Cケーブルの点検事例・管理方法・耐久性向上策等についての報告
- ③ 本工学会の既設P Cポストテンション橋の再生・補修・補強検討委員会にて策定した既設P Cポストテンション橋保全技術指針の紹介
- ④ P C鋼材に関わる海外規準として, *fib Commision-5* に参画し, 本委員会活動についての紹介

(9) 公募研究委員会

新規の研究課題ならびに研究委員会の公募を会誌およびホームページに公表し募集したが, 応募がない結果となった。

(10) P C技術講習会委員会

委員会を1回, 小委員会を1回開催し, 令和4年6月に開催した第49回P C技術講習会(オンライン形式)の受講者アンケート結果を踏まえて十分な審議を行い, 次回第50回P C技術講習会のプログラムを決定した。全国3地域の有識者による特別講演とテキスト講演題目6題を設定した。

(11) P C技士委員会

委員会を1回, 各小委員会を6回開催した。受験者および再登録者を対象にオンライン(オンデマンド動画配信)によるP C技士講習を実施した。令和4年10月16日(日)に東京, 大阪, 福岡の3会場において一斉に第29回プレストレストコンクリート技士試験を実施し, 12月7日に合否の判定を行った。

(12) コンクリート構造診断士委員会

委員会を1回, 各小委員会を11回開催した。受験者および更新登録者を対象にeラーニングによるコンクリート構造診断技術講習を実施した。令和4年7月3日(日)に東京, 大阪, 福岡の3会場において一斉に第15回コンクリート構造診断士試験を実施し, 10月13日に合否の判定を行った。

(13) 国際委員会

「P C工学会の国際化を進めるための企画・提言を行うこと, ならびに日本のP C技術を海外へ情報発信すること」を目的に, 令和4年度は以下の活動を行った。

- ① *fib* の総会, Technical Council, Presidium に参加した。
- ② *fib* の各種委員会 (Commission 1,3,5,7,10 ならびにそれらの下の Task Group など) に参加した。
- ③ Model Code2020 のドラフトに関する意見照会を行い, *fib* に提出した。
- ④ P C工学会英文ホームページの更新を行った。
- ⑤ P Cシンポジウムの海外からの特別講演の企画, 運営を行った。

- ⑥ P C技術講習会の国際関係のテキスト執筆と講演を行った。
- ⑦ ベトナム I T S Tとのオンラインワークショップを行った。

【公募研究委員会】

(1) 浜松町駅旅客ホーム上家調査委員会

本委員会は、1954年竣工の旧国鉄の建築物として初めてP C構造が採用された「浜松町駅旅客ホーム上家」が令和3年2月に解体されたことを受けて、その調査を目的として令和3年10月より活動を開始した。

委員会を日本大学理工学部船橋キャンパス（オンライン併用）において1回開催した。部材調査WGは、同キャンパスに搬入された部材に対して、3Dスキャン、載荷試験、X線による配筋調査、残存プレストレス量調査およびコア抜き調査を実施しデータを解析した。また、文献調査WGは、建設時の資料および文献を収集整理した。なお、調査結果のさらなる検討を行うため、調査委員会の活動を令和6年3月まで1年間延長することとした。

【受託研究委員会】

(1) 既設P Cポストテンション橋の再生・補修・補強検討委員会

「既設P Cポストテンション橋保全技術指針」の発刊に伴う講習会を令和4年4月～5月に東京、大阪、福岡の3会場において開催した。また、より多くの方に講習会を聴講してもらうべく7月～8月にオンライン（オンデマンド動画配信）講習会を開催した。

(2) P C連続Uコンボ橋の継目部に関する設計指針検討委員会

本構造形式のU桁と柱頭部との継目部においてひび割れが生じることがあるため、さらなる耐久性向上を図るための設計指針について審議し、策定した。本設計指針の内容は、会誌第64巻6号およびホームページに掲載した。第31回シンポジウムのワークショップの講演をもって委員会を終了した。

5. 講習会等事業

(1) 第49回P C技術講習会

第49回P C技術講習会を令和4年6月6日（月）から6月27日（月）の22日間にわたりオンライン形式（オンデマンド動画配信）で開催した。受講者は2,864名で、725名からW e bアンケートの回答を得た。

(2) プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム

令和4年10月20日（木）・21日（金）の2日間にわたり、島根県松江市のくにびきメッセにおいて、「第31回プレレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」を開催した。一般社団法人島根県建築士会会長の足立正智氏、Prof. Abdeldjelil Belarbi氏による特別講演と、130題の論文、報告の発表が行われ、優秀講演賞15名を表彰した。また、36団体による技術展示の実施、ワークショップでは3題が報告された。参加者は625名で、法人正会員、賛助会員のほか、関係諸団体を合わせて50団体から後援があった。

- (3) 「PC斜張橋・エクストラード橋設計施工保全規準」の発刊に伴うセミナー
令和4年1月に策定した標記規準の発刊に伴うセミナーを4月4日（月）から4月15日（金）までの期間、オンライン（オンデマンド配信）で開催した。参加申込者は137名であった。
- (4) 「既設PCポストテンション橋保全技術指針」の発刊に伴う講習会
平成31年1月から活動を開始した「既設ポストテンション橋の再生・補修・補強検討委員会」の成果として標記指針を令和4年1月に策定し、その発刊に伴う講習会を4月19日（火）東京：アルカディア市ヶ谷、5月13日（金）大阪：建設交流館、5月18日（水）福岡：天神クリスタルビルで開催した。参加者は、合計223名であった。また、7月25日（月）から8月5日（金）までの期間に開催したオンライン（オンデマンド配信）講習会の参加申込者は140名であった。

6. 資格認定事業

(1) プレストレストコンクリート技士制度

1) プレストレストコンクリート技士試験講習会

令和4年度のプレストレストコンクリート技士試験講習会を、令和4年9月5日（月）から9月20日（火）にわたり、オンライン（オンデマンド動画配信）で、再登録研修を令和4年9月5日（月）にオンライン（録画ライブ配信）にて開催した。受講者は計97名であった。

2) プレストレストコンクリート技士試験

令和4年度のプレストレストコンクリート技士試験を、令和4年10月16日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は301名で、試験の合格者は80名であり、会誌第65巻1号およびホームページに掲載発表した。

3) プレストレストコンクリート技士登録

令和4年度標記試験合格者の登録者は80名で、登録更新者は832名（更新対象者は1,132名）であった。また、再登録者が28名あり、令和4年度のプレストレストコンクリート技士登録者は合計940名となった。その結果、令和4年度末の有資格者（登録者）は4,794名である。

(2) コンクリート構造診断士制度

1) コンクリート構造診断技術講習

令和4年度のコンクリート構造診断士試験に先立ち、任意受講のコンクリート構造診断技術講習（Web上でのeラーニング）を、3月1日から7月1日の期間、実施した。受講申込者は、135名で、受講修了者は112名であった。

2) コンクリート構造診断士試験

令和4年度のコンクリート構造診断士試験を、令和4年7月3日（日）に東京、大阪、福岡

の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は182名で、試験の合格者は61名であり、会誌64巻6号およびホームページに掲載発表した。

3) コンクリート構造診断士登録

令和4年度標記試験合格者の登録者は、61名であった。コンクリート構造診断士の登録更新者は248名（更新対象者は263名）で、再登録者は7名であった。令和4年度末の有資格者（登録者）はコンクリート構造診断士1,381名である。

○事業報告に係る附属明細書について

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

令和5年4月

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会